

ひとひと輝く女と男にインタビュー



鳥取市農業委員会 会長
濱田 香さん

女性は農業人口の約半数を占め、農業や地域活動でも重要な役割を果たしています。昨年6月、鳥取県で女性初の鳥取市農業委員会会長に就任された、濱田香さんにお話を伺いました。

◎ 農業委員会とは？

農業委員24人（女性2人）農地利用最適化推進員48人（女性1人）で構成されており、主な業務として、農地の利用最適化を行っています。例えば、遊休農地を細分化して農業者に分配するなど。また、参入者の支援や、農地に関する各種申請手続き等も行っています。

◎ 全国（1703組織）でも女性の農業委員会会長は24人しかいないが、会長になることに抵抗はなかった？

実家が農家で、若い頃から地元の農家の人々と地域活動をしていたため、『男性社会』に入ることにあまり抵抗はありませんでした。また、兼業で農業をしていた夫が専業になったことで農業との両立も可能となり、子育ても一段落したことから就任を決めました。

◎ 実際就任してみてどうでしたか。

30代の頃、6年間農業委員をしていましたが、離れている間に制度・組織の変革があり、スキル、経験不足、年齢的な事等で荷が重く感じることもあります。しかし、周囲の支援により、「リーダーの形は人それぞれで、自分らしくすればよい」と思えるようになりました。

濱田さんは農業委員会会長、自身の農業に加え、「とっとり農業女子ネットワーク」や「らっきょう女子会」の一員としても活動されています。

◎ どのような思いで活動をされていますか。

※「とっとり農業女子ネットワーク」では、個々

のスキルアップはもとより、農業の楽しさを発信し、女性就農者を増やすことを目的として活動しています。また、地元（福部町）で結成した『らっきょう女子会』では、らっきょうの栽培・加工・商品化に取り組んでいます。共通しているのは、「女性たちが自分の力でやりたいことをやり、楽しむこと」。これらの活動を通して、『農業は楽しい!』ということを発信していき、女性就農者の増加と更なる女性の活躍に繋がっていけばいいと思います。

◎ 今後の展望をお願いします。

委員会の定例総会とは別に、些細な地域の困りごとを話してもらう「座談会」を昨年初めて開催しました。「座談会」で出た問題の解決策を皆で考えています。気軽に悩みを話せる場として、今後もこれは続けていきたいです。また、他の市町村の事例なども参考にし、農業者との橋渡しとなるような委員会となっていければと思います。



座談会の様子

※「とっとり農業女子ネットワーク」県内で農業に従事する女性たちで結成された団体。会員が交流や連携を通じて事業を企画・運営している。



「らっきょう女子会」が開発した商品